

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						2.9		
Q1 室内環境			0.40			3.2		
1 音環境		2.9	0.15	-	-	2.9		
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		2.8	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		2.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	3.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.60	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	-	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0		
3.1 屋光利用		3.0	0.30	-	-			
3.1.1 屋光率		3.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		3.0	-	3.0	-			
3.1.3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 屋光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-	4.2		
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質		建築基準法対象外となる建築材料(F☆☆☆☆)を全面的に使用		5.0	1.00	3.0	-	
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	-	-	
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御		建物内部はすべて禁煙としている。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.0
1 機能性		2.9	0.40	-	-	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.1.3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動など円滑化基準を満たしている。		4.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	-	-	-	-	
1.2.1 広さ感・景観		1.0	0.50	3.0	-	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.2.3 内装計画		1.0	0.50	3.0	-	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保		十分なスペースの清掃用具室、各トイレに清掃用流し、点検口600		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔		タイル張り40年		4.0	0.23	-	-	
2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性				2.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.3	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高は3.8mである。 (3階)壁長さ比率0.287	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			PAL値=149(ポイント法)	4.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化			ERR=0	3.7	0.30	-	-
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-
1.1 節水			節水型器具、擬音装置	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水再利用				3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-
2 雑排水再利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63	-	-
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.8	0.22	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用			建築基準法対象外となる建築材料(F☆☆☆☆)を全面的に使用	5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68	-	-
1 消火剤			ハロン消火剤を使用する室がない。	4.0	0.33	-	-
2 断熱材				3.0	0.33	-	-
3 冷媒				3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮			LGC02排出率が一般的な建物(参照値)の98%	3.1	0.33	-	-
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.3	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減				-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-
3 交通負荷抑制				3.0	0.33	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-
1 騒音				3.0	1.00	-	-
2 振動				-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-
2 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-